



第28号

2021年(令和3年)7月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎0957-34-4520

FAX 0957-34-4521

[年2回発行]

聖家族会60年の歩みの中で

社会福祉法人

聖家族会 理事長

西村 和子

今年は聖家族会の創立60周年の節目の年にあたります。

小長井町をはじめとして多くの人々に支えられて歩んでくれたことを感謝申しあげます。

1961年(昭和36年)5月にめぐみの家が開設され、同年11月には「社会福祉法人聖家族会」が認可されました。小長井に「みさかえの園」として、めぐみの家、むつみの家、のぞみの家、あゆみの家の4つの施設が次々と落成開園していきました。

また、社会の必要に動かされて1966年(昭和41年)8月に佐賀に「社会福祉法人聖母の騎士会」が

認可されました。佐賀の聖母の騎士会後は後にも大分にも施設を開設し、聖母の騎士修道女会を母体とする施設は、現在では長崎、佐賀、大分の三県にわたって展開しています。

聖母の騎士修道女会を母体として始まった二つの社会福祉法人ですから、基本理念も同じものを共有し、シスター達を中心に異動もあり、互いに関心があり、交流もありました。現在では、二つの社会福祉法人では、法人の代表者会議を定期的に開催し、情報交換をしています。

この二つの社会福祉法人が神さまの豊かな祝福のもとに、国や県、そ

して地域のニーズにかなない、利用者様・そのご家族の方々に喜んでいただけるよき施設でありますように、これからの職員がひとつとなつて、家族的つながりのある施設づくりを行っていくことができますようにと願っております。

そして、いつか二つの社会福祉法人が、一つの法人となり、社会に役立つものとして新たな成長ができればどれほど素晴らしいかと思えます。

新職員寮「みさかえハイツ」が完成しました



新職員寮「みさかえハイツ」が旧あゆみの家跡地に完成し、7月5日に祝福式を挙行しました。老朽化したマリア寮(女子寮)とヨゼフ寮(男子寮)に代わる単身寮として新築完成しました。

男女共用で各室にバス、トイレ、キッチン、インターネット設備を完備したワンルームタイプの2階建、14室です。

新規入職者の受け入れ、また、実習生の宿泊施設、災害や感染症発生時の帰宅困難者の宿泊施設としての活用を見込んでいます。

第二めぐみの家の増築・改修工事が始まります

第二めぐみの家では、工事業者が決まり、いよいよ7月から、増築・改修工事が始まります。工期は来年5月末迄を予定しています。

工事概要は、食堂、浴室、日中活動場所を新しくし、利用者様の動線等を考え園内で今まで以上に快適に過ごせるよう工夫しリフォームしたいと考えております。

工事期間中は皆さまに大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

笑顔に思う..

みさかえの園のぞみの家
副施設長・事務長 副島 敏充



令和3年4月からのぞみの家と第二めぐみの家の副施設長として併任勤務することになりました。

まだ、副施設長らしい業務とはなりません、のぞみの家で週二回(火曜日・金曜日)勤務をする中で、私を園内で見かけると、多くの利用者が名前を呼んで笑顔で声を掛けてくださいます。

以前の職場では、ほぼ一日がデスクワークで始まり、デスクワークで終わる日々でした。今思い返しても、笑顔はどうだったかな...と忘れる程のものだったような気がします。

今日、コロナ禍で人と交わることが減ってきた世の中ですが、やはり「笑顔」という表情が、どれだけ人の心を明るく、温かくしてくれるのかを利用者様から学びました。

このコロナ禍も来年には収束となり、施設らしい行事等々が催されることを信じ、皆様の心が少しでも晴れやかな気持ちとなることを祈っています。

私自身、副施設長として駆け出しですが、利用者様の心に寄り添ってこれからも頑張りたいと思います。

コロナ禍における状況

みさかえの園のぞみの家
事務員 城戸 美乃

今年も新型コロナウイルスの収まる気配はなく、感染拡大の日々に皆が頭を悩ませていることと思います。のぞみの家でも、新型コロナウイルスの影響を受け、外出行事の取り止めや企画の変更などを余儀無くされています。毎年ゴールデンウィークの期間に行うニコニコDAYも昨年に引き続き、ご家族の来園を中止し、利用者様と職員で開催をしました。利用者様は、ご家族と面会することができると信じて、一年間、新型コロナウイルスの感染対策に理解を示してくださり、我慢する日々を過ごされてきました。しかし、感染防止の為に「持ち込まない・持ち込ませない」ことが優先です。一人ひとりがこの事を意識し、園内行事では感染対策をきちんと取りつつ、可能な限り創意工夫を凝らして開催するよう取り組んでいます。面会自粛などが続き、利用者様の近況を知る術も少ない中ではありますが、今後もホームページやのぞみ新聞を通じて、施設での利用者様の様子や活動内容を共有できればと思っています。



手を洗おう



顔を洗おう



マスクをしよう

のぞみの家 活動紹介

ご復活のお祝い



バスハイク



記念の一枚

ニコニコDAY



誕生会



楽しい思い出をたくさん作ろうね！



お楽しみショッピング

どれにしようかな？
これもいいね。

日中活動



「医療的ケア児支援法」可決

みさかえの園総合発達医療
福祉センターむつみの家

施設長 福田 雅文

2021年6月11日、参議院本会議で「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」(以下、医療的ケア児支援法)が可決された。「医療的ケア児」を法律上で明確に定義し、日本の歴史上、初めて国や地方自治体が医療的ケア児の支援を行う責務を負うことを明文化した法律で、9月から施行されます。

胃ろうやたんの吸引、人工呼吸器といった医療的ケアが日常的に必要な子ども「医療的ケア児」と、その家族への支援を充実させる法律です。保育所や学校などに通う機会が平等に得られるように、医療的ケアを行う看護師らの配置を設置者に求めることなどが柱となっています。

厚生労働省によると、医療的ケア児は全国に推計で約2万人いて、生まれつきの病気や障がいなどの影響で医療的ケアが欠かせない。新生児医療の技術進歩を背景に、重い病気の子ども達も、医療的ケアを受けることで、家族と一緒に生きることができるようになっています。

むつみの家では県より委託を受けて医療的ケア児等コーディネーター

養成研修を毎年行っています。「医療的ケア児」に関する文言は2016年に初めて明記され、その定義もまだ流動的で、しっかりと見極めながら、支援していきたい。

JICA海外協力隊へ参加して
学んだこと 後編

みさかえの園総合発達医療
福祉センターむつみの家 リハビリテーション科
理学療法士 就直也

前編ではJICA海外協力隊とボランティアについて報告させて頂きました。今回の後編では実際に行なったボランティア活動について報告させていただきます。

ボランティア事業の一つである青年海外協力隊は、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で途上国の課題解決に貢献する活動を行っています。「ベトナム人理学療法士の小児リハビリに関する知識や技術の向上」という要請内容で派遣されましたが、「今は何が必要なのか?」、まずは派遣先病院の現状把握から始めました。

疾患部位や障害像に対してのアプローチが多く、個々の生活を見据えた医療提供が難しい状況にある事がわかりました。同僚と何度も話し合った結果、今後も持続可能な事と

して「ICF(国際生活機能分類)」の普及について「取り組む事になりました。ご存じの方も多いと思いますが、ICFは患者の全体像を把握し、多職種で連携して関わるための考え方として、2001年にWHOが採択し世界的に知られています。

実際に臨床を行いながら同僚とディスカッションし、直接指導する一方、「ICFや医学的な基礎知識に関する勉強会を開催し、ICFに関する知識を深めてもらうことができました。私が外国人であるにも関わらず温かく受け入れ、熱心に勉強してくれました。他にも母子健康手帳の普及活動、小児リハビリで使用する道具や玩具の製作、食事介助指導など多くの事も並行して同僚と行いました。

しかし、ICFを使用した職種間連携について実践しようとしていた矢先、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により一時帰国をせざるを得ませんでした。急な帰国でお互いショックでしたが、時差が2時間なのも幸いし、帰国後もオンラインでやり取りする事ができました。「歩けなかった○○ちゃんが自転車に乗れるようになったよ!」「△△したら○○くんが泣かなくなった!」など嬉しい連絡をくれる事が増えました。



結果的に、任期中は派遣先病院において、ICFを使用した職種間連携までには至りませんでした。患者個々に合わせたアプローチの大切さは伝わったと感じています。

約一年半のボランティア活動を通して、コミュニケーションの大切さや職種間連携・協働の難しさを改めて学ぶ事が出来ました。

今後、職場においては今まで以上に職種・他職種とのコミュニケーションを密にし、利用者により良い医療サービスが提供できるように努めたいと思っています。

わくわく広場に異動して

諫早こどもデイサービス わくわく広場
保育士 松浦 史子

むつみの家に入職し6年目になります。病棟での勤務を経て、この春からわくわく広場に異動になりました。

病棟では利用者様の日常のお世話や、活動の支援など行いました。コロナウイルスが流行する以前は、季節ごとに集まって行事をしたり、お出かけの企画をし、お買い物や食事を楽しんでいました。一方で、保育園での勤務経験しかなかった私は、介護については全くの初心者でした。初めての成人介護、それに加えて、それぞれの特性に応じた食事介助や排泄介助など、覚えるのは大変でした。でも、病棟職員の皆さんに一つひとつ丁寧に教えていただき習得することができました。

利用者様との時間は笑顔が溢れるかけがえのないものとなりました。ちよつと後ろ髪を引かれるような思いもありましたが、わくわく広場へ異動となり、再び子どもたちと触れ合う機会をいただきました。

わくわく広場では、平日の午前と午後、それぞれ違うグループが親子で来園されます。今は、各グループ活動のサブにつきながら学んでいる

ところです。一般の保育園と違い親子通園なので緊張するところもありますが、少しずつ活動の一部を任せてもらいながら、リーダーとしてグループを担当できるように頑張っています。

地域支援ということで、子どもたちをとりまく社会を繋ぐ役割の一端を担うことになる、と思うと肩の荷が重い感じがするのですが、子どもたちの成長は、スピードの差こそあれ確実にあり、その子どもたちの姿を見届けることができるのは、幸せなことだと思っています。

そんなわくわく広場で仕事ができることを誇りに思い、これまでの経験におごることなく学んでいきたいと思っています。そして、子どもたちの成長を、ご家族、地域の方々と共に温かく見守っていくための架け橋になれるよう頑張ります。

輝く夢と希望

デイスペースあん
生活支援員 北嶋 美香

昨年の10月から新しくスタートした一人ひとりの個性を活かした創作活動は少しずつ定着してきました。

皆さん生き生きとした表情で「今日は何しよう?」と利用者様自ら活動内容を決め、ウキウキわくわくでき

る活動になってきました。ウキウキわくわくできる活動から活動名を変えし、『わくわく』活動として心新たに再スタートが始まりました。

利用者様の趣味は幅広く、アートコーナーを開き、テーマに沿った作品を掲示し、楽しみや喜びで笑顔溢れ個々の活動も楽しまれています。

皆さんの作品でデイスペースあんは明るく夢と希望で輝いています。

他にも様々な新しい活動が始まりました。「男子会」と名付けたDIY工作では普段体験できない工具に触れトントンカンカンと笑い声と一緒に元気に取り組まれています。最近工作した看板では、売店の商品を飾りサテライトセンター玄関前にて一段と商品を輝かせてくれています。来客の方や送迎時の保護者様の目にも止まり大人気となっています。



ほっこり班活動では園芸活動として昨年収穫した種を「幸せのひまわりの種」として販売し評判がよく嬉

しいことに残りわずかになってきました。

今後はゴーヤーも販売予定です。水やりを行い栄養たっぷりまた愛情たっぷり注ぎ育成中です。

今回コロナ感染拡大によりGHの方が外出できず「買い物したい!」と声が上がったので、期間限定で車に商品を乗せ訪問販売カーをOPENしました。とても評判がよく、今後は地域の方へ向けた訪問販売への夢を膨らませています。

「今だからできる事」これからできる事」を考え地域の中のデイスペースあん、地域の方と一緒に地域の活性化に繋がるよう夢と希望を一緒にのせて、商品を笑顔でお届けできたらと思っています。

「地域の中で」「地域と共に」「地域の方に支えられながら」これからも地域と繋がる「あんこのあん」を目指して取り組んでいきたいと思っています。



ICT利用について

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松 公三郎

コロナ禍が長引くなかで、ICT機器を使用する頻度が格段に増えました。病棟では、面会、外出、外泊が制限される中での保護者の方とのオンライン面会、職員においては、三密を避けるためのWeb研修、リモートでの学会や会議への参加があります。これらのICTを利用する世界は、コロナ終息後にも広がっていくのではないのでしょうか。画面をとおしてですが、遠隔地であっても近くコミュニケーションがとれる便利さは有難いものです。

あゆみの家の入所者の平均年齢は51歳になります。ご両親の年代はほとんどが後期高齢者になられています。ICTとは縁の薄い世代ではないかと思いますが、「我が子の様子をみたいので、この機会にタブレットを購入しました」と頑張っておオンライン面会に臨まれるお姿には、子を想う親の愛情を強く感じるとともに、どの世代にも浸透していくICTの時代“を感じます。

技術刷新は常に新しい可能性を引き出します。しかし、その利用においては人として大事なものをおさえておくことが必要です。それは、バーチャルにはない人のところであり、気持ちです。コロナ後の世界で、人と人とのつながる時のICTの利用には、その効用と限界をわきまえて臨みたいものです。

あゆみの家における ICT 利用

ICTとは、情報通信技術を活用したコミュニケーションを意味する言葉です。

ICTは、Information and Communication Technologyの略で、情報通信技術と訳されます。

似た言葉にIT(Information Technology: 情報技術)がありますが、ITはコンピュータ関連の技術そのものを指すのに対し、ICTは、ITにCommunicationという言葉が加わっており、ITよりもコミュニケーション(意思を伝達し合うこと)を重視したイメージです。

あゆみの家では、以下の3つの方法でICTを利用した情報発信などを行っています。

1. オンライン面会

スマートフォン、タブレットやパソコンで無料通話アプリ「LINE」のテレビ電話機能を使って面会していただいています。長引くコロナ禍の影響もあり、対面による面会を制限せざるを得ない状況が続く中で、入所利用者様とご家族様のコミュニケーションの一助になればと思い始めました。毎月5名ほどの利用者様に使っていただいています。

遠距離などの理由でなかなか当施設まで来ることが難しいご家族様のご利用も可能ですので、コロナ終息後も続けていきたいと思っています。

2. ホームページ (<https://misakae.or.jp/facility/ayuminoie>)

ホームページには、他の医療機関と同様に医師の紹介や外来の案内などを掲載しています。また、入所利用者様の日常生活や日中活動の様子を画像や動画でご紹介しています。ぜひご一読ください。

3. 一斉メール

ご希望されるご家族様、後見人様に、ホームページの更新情報や面会規制の情報などをメールでお送りするサービスを計画しています。

情報発信の方法は、ICTなどの新しい技術を使用したものだけではなく、従来から行っておりますお手紙の郵送などの方法も情報発信において重要な手段の一つですので、従来の方法はこれまで通り残しつつ、新しい技術の良いところを取り入れ、より円滑な情報発信ができるよう努めてまいります。

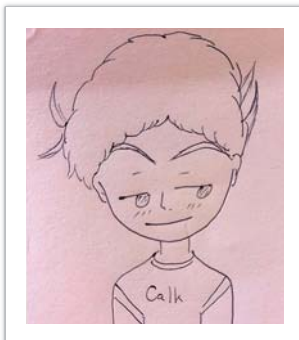


ワークスペースあん

今年は梅雨入りが早かったですが梅雨明けは例年通りとのこと。農業中心に生産活動を行っている事業所としては、農作物への影響（生育不良や耕作遅れ等）が懸念されます。年間作業もルーティン化し利用者さんの「できる」＝「強み」を活かし作業工程も安定感が増してきています。日々の作業の積み重ねと経験値の重要性を改めて感じるところです。今回、その現場で日々支援に携わっている職員紹介を載せています。

イラストは、絵の得意な利用者さんに依頼しましたが特徴を掴んで描いています。

育苗〈野菜苗・玉葱苗〉 担当：野中 宏幸（目標工賃達成指導員）



諫早市の八江農芸(株)様から請負を中心に野菜苗(15,000本)玉葱苗(3,500束：1束100本)生産しています。

アピールポイント ①土作り・種まき・植え付けの全工程を担当。

②直売所：森山（もぎたて市）、飯盛（フレッシュ251）、小長井（漁協）、大村（松吉）でも販売中でリピーター様も増加傾向です。

育苗〈花苗〉 野菜〈玉葱・白菜・高菜〉 担当：中村 慎一郎（職業指導員）



諫早市緑化公園課の「花いっぱい運動」の委託で年間2回約24,000本生産しています。白菜・高菜は地元業者様から委託生産、玉葱は法人内販売及び直売所へ搬入しています。

アピールポイント ①土作り・種まき・植え付け・管理・収穫・搬入の全工程を担当して収穫や搬入時の喜びはひとしおのようです。

環境整備〈除草・剪定・花壇整備・清掃〉 担当：小池 久（生活支援員）



法人内（各施設・グラウンド及びトイレ）・個人宅・近隣の保育園を中心に行っていますが、官公庁の建物や民間企業（お店）の作業実績も多々あります。

アピールポイント ①外部に出向き得意な除草作業に取り組む姿は生き生きとして作業意欲も旺盛です。



あんを利用され丸2年が過ぎました。とっても頼もしいパワーみなぎる青年です。

作業依頼や購入依頼など受け付けておりますのでお気軽にご相談ください。品質と作業技術には自信を持って利用者さん職員一同取り組んでおります。

（サービス管理責任者 門脇 直子）

第二めぐみの家近況

みさかえの園第二めぐみの家

副施設長 副島 敏充

令和3年4月からみさかえの園の一員となり第二めぐみの家とのぞみの家の副施設長として併任勤務することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

6月2日に、災害時に備え炊き出し訓練を行いました。

炊き出しは、東日本大震災の時、自衛隊の方々が作っているのを見ましたが、実際自分が直接炊き出しに参加したのは初めてでした。

炊き出しは、約70人分用意するものでしたが、主食は、定番のカレー、副菜はきんぴらごぼう、鯖のみそ煮等でした。特に驚いたのは、一度に50人分のご飯がダンボールに入っており、それにお湯や水を注ぐだけで作れてしまう『炊き出し用マジックライス!』試食した感想は、少しやわらかく米粒が小さいかな?という感じでしたが、意外に美味しいものでした。

調理師さんたちは、最初のガスコンロ設置には戸惑ったものの、ふだんからの作業で心得た動きをされテキパキと作っておられました。



利用者の皆さんは、いつも食べてる食堂ではなく避難場所(講堂等)でカレーを口一杯頬張りながら、美味しそうに食べられていました。災害の時こそ心も体も悲壮感にある中、やはり食というものが、いかに生きる力になるか?

東日本大震災の災害派遣で活動した中、人々の笑顔が食事の時に感じられたことを思い出しました。

みんなで感染対策

みさかえの園第二めぐみの家

看護師 高野 真寿美

5月7日に利用者様全員の胸部レントゲン撮影がありました。

病院受診時にマスクを嫌がって外してしまう人が多いので全員着用は無理だろう、利用者55名のうち半分くらい着用できたらい方ではないかと思っています。

しかし、実際はほとんどの利用者様がマスクを着用し撮影を終えることができました。「これ(マスク)をはめなければいけない」と理解して撮影に望めたことは素晴らしいことだと思います。

食事前の手洗いやアルコール消毒も実施しています。利用者のM様はトイレの後や食事前に必ず泡のハンドソープで手洗いをしています。以前は泡がついた手で蛇口を触り、手を洗い流した後で泡がついた蛇口を閉めていたので、流したはずの手や手首、手の甲に泡がたくさんついていました。「ここに

泡がついていますよ」と声かけを行ううち、私が近くを通ると「今日は泡ついていない?」と手のひらや手首を見せ、「ここ(蛇口)の泡は流したよ。大丈夫?見て」としっかりと泡を洗い流すことを意識するようになってきました。手の拭き方も手のひらを少しハンドペーパーで拭くだけでしたが、ぬれている部分を繰り返し伝えることによって手の甲も拭くようになりました。利用者様には実際に繰り返し声かけを行い意識づけることはとても大切なことだと思います。

コロナ禍の前から第二めぐみの家では、食事前に「ノロノット」というアルコール不使用の除菌抗菌剤を手指の消毒に使用していました。現在はアルコール消毒に変更していますが、スプレーボトルを見ると、どの利用者様も手のひらを出してくれています。いつも手をグーッと握りしめているS様もその時ばかりは手を緩めてくれます。これからも継続していきたい良い習慣だと思います。

このコロナ禍で外出や外食ができなくなり、外泊や保護者様との面会も制限され、利用者様もたくさん我慢されています。一日でも早く「コロナウイルス」が収束して面会日やクリスマス会などの行事が開催できることを願っています。

令和 2 年度 決算報告

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,060,628
固定資産	9,434,528
(基本財産)	4,373,401
(その他の固定資産)	5,061,127
資産の部合計	11,495,156
負債の部	
流動負債	312,235
固定負債	7,525
負債の部合計	319,760
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	144,105
その他の積立金	3,618,545
次期繰越活動増減差額	6,722,142
(うち当期活動増減差額)	△148,674
純資産の部合計	11,175,396
負債及び純資産の部合計	11,495,156

事業活動計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,076,949
サービス活動費用計	4,235,315
サービス活動増減差額	△158,366
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	18,883
サービス活動外費用計	504
サービス活動外増減差額	18,378
経常増減差額	△139,987
特別増減の部	
特別収益計	28,860
特別費用計	37,547
特別増減差額	△8,687
当期活動増減差額	△148,674
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	7,192,625
当期末繰越活動増減差額	7,043,951
積立金取崩額	0
積立金積立額	321,809
次期繰越活動増減差額	6,722,142

資金収支計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,095,312
事業活動支出計	3,838,070
事業活動資金収支差額	257,242
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	28,353
施設整備等支出計	129,230
施設整備等資金収支差額	△100,877
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	0
その他の活動支出計	324,009
その他の活動資金収支差額	△324,009
当期資金収支差額合計	△167,644
前期末支払資金残高	2,124,413
当期末支払資金残高	1,956,769

・ 端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和 2 年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分類	件数
① ケアの内容に関わる事項	4
② 個人のニーズ（嗜好・選択）に関わる事項	0
③ 環境・設備に関わる事項	0
④ 事務に関わる事項	0
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	3
⑥ その他	3
合計	10



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらの QR コードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>